

# 出図システムの更新

## 1. はじめに

出図システムは、設計部門が図面を社内外関係者に配付する出図業務を担うものである。出図業務は、出図担当者が設計者から依頼を受け、部品構成リスト(BOM<sup>\*</sup>)に従い図面を印刷し、客先や生産部門等の社内外に配付することである。このたび、出図システムのサーバ類や印刷機の老朽更新が必要となった。更新に合わせ、出図業務の更なる改善を図ったので紹介する。

<sup>\*</sup> Bill of Materials

## 2. 出図システム

### (1) 出図システム効率化の経緯

電力カンパニーでは、出図業務の効率化のために種々の改善を行ってきた。1990年代までは紙図面が主体で、手動により出図業務を行っていた。2000年代に入り紙図面の電子化(TIFF形式)とデータベース化を進めた。これにより出図担当者の出図業務の手動作業を減らし、出図システムの自動化を図った(愛知電機技報No.26(2005))。

### (2) 出図業務の概要と更新による変更点

出図業務の概要は以下の通りである(図1参照)。

- ①設計者が出図担当者に依頼を行う。依頼は専用の帳票(出図依頼書)にプロジェクト番号や連絡事項を記入し、上長の承認後、出図担当者に提出する。
- ②出図担当者が出図依頼書の内容を確認する。出図依頼書に不備があれば、設計者に修正を依頼する。
- ③正しく記載された出図依頼書の内容に従い、出図担当者がソフトを操作し、出図用データを作成、出図システムへ転送する。データはBOMに従って取得される図面番号、プロジェクト番号、必要部数等から構成される。

- ④出図担当者が出図システムで出図用データを選択し印刷を行う。

今回、このうち出図依頼書を廃止し、出図依頼書への記入から出図依頼ソフトの操作へと電子化を図った。

### (3) 出図システム更新による効果

出図依頼の電子化により、出図依頼内容に不備があればソフト上で警告し、設計者が警告内容を見て正しい情報で出図依頼できるようになった。これにより出図担当者による従来の依頼内容確認が不要となった。また出図依頼ソフトでは、従来別で行っていた出図用データ作成も同時に行うようにした。これにより、出図担当者による従来の出図データ作成も不要となり、作業時間の大幅削減につながった。なお、設計者の出図依頼は、従来の出図依頼書から出図依頼ソフトに変更したことで手戻り時間が減った(図1の②、③が省略)。

## 3. まとめ

出図システムの更新により、更新前の出図システムと比較し、以下の効果が得られた。

- ・サーバ導入費用 半減
- ・印刷機年間印刷費用 7割減
- ・出図担当者作業時間 半減

今後は、図面配付のデータ送信や自動化などによる図面配付の効率化を進める。

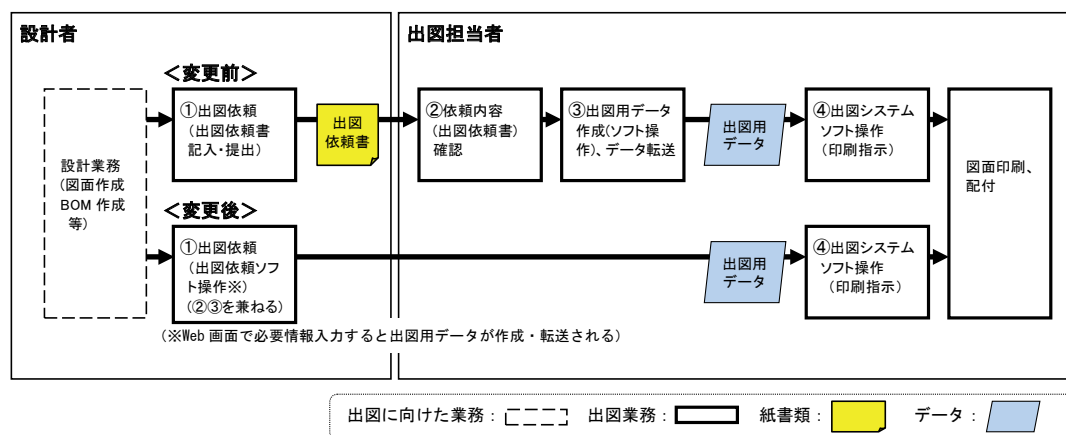


図1 出図業務の概要